

運動機会の創出が QOL 向上に及ぼす影響に関する研究

秋田大学 学生会員 ○松本 大輝
秋田大学 正 会 員 日野 智
秋田大学 正 会 員 木村 一裕
秋田大学 正 会 員 鈴木 雄

1. はじめに

近年、健康志向の高まりから、運動や運動施設の利用が注目されている。運動や運動施設の利用は体力向上や健康増進などにつながると考えられる。さらに、運動施設の利用は効果的な運動の実現と同時に、他者との交流が活発になるなどの QOL(生活の質)の向上をもたらすことが期待される。

本研究では、公共、民間運動施設の利用者や住民を対象として意識調査を実施し、運動や健康に対する意識、運動施設の利用状況を把握する。そして、運動施設の利用が運動機会の創出をもたらし、QOL(生活の質)の向上に寄与することを示したものである。

2. 本研究における意識調査の概要

本研究では、秋田市内の公共運動施設と民間運動施設の利用者、秋田市桜ガ丘と東通の住民を対象に意識調査を実施した。直接配布・郵送回収方式により、公共運動施設で 134 票、民間運動施設では 44 票、住宅地では 143 票を回収した。調査では、運動における満足度や頻度、期待できる効果、運動における費用の負担意識などを質問している。

3. 運動と運動施設の評価

(1) 運動に対する意識

調査対象地別にみた運動の頻度を図 1 に示す。定期的に運動を行っている被験者の割合が多い。このことから施設被験者は運動に対する意識が高いといえる。

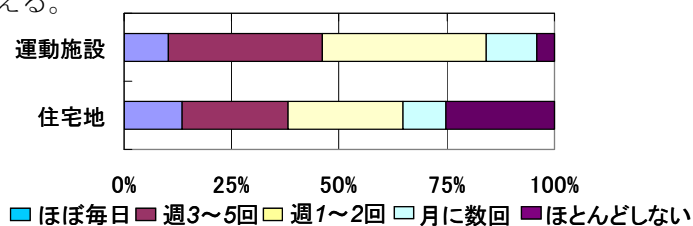


図 1 調査対象地別にみた運動の頻度

(2) 運動施設利用と運動に対する満足度

運動施設の利用経験に応じて、運動に対する満足度を比較した(図 2)。運動施設の利用経験がある被験者は、利用経験のない被験者に比べ、運動に対する満足度が高いといえる。

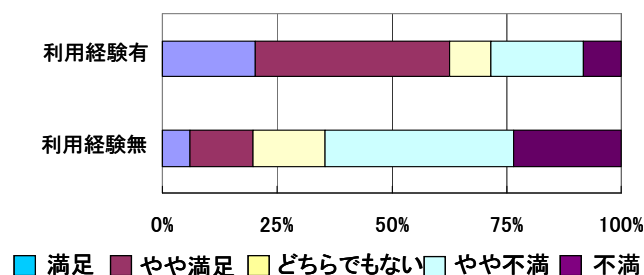


図 2 運動施設利用の経験と運動の満足度

(3) 運動施設に対する満足度

調査では運動施設利用者に施設の総合満足度と個別項目の満足度を質問している。被験者の総合満足度は高いものであった。外的基準を運動施設の総合満足度、アイテムを運動施設の利用による各項目の評価とし、数量化理論Ⅱ類により要因分析を行った。数量化Ⅱ類におけるレンジを図 3 に示す。「施設の雰囲気」のレンジが最も高く、次いで「運動する仲間がいること」「施設までの移動のしやすさ」となり、これらの評価が施設の総合満足度に影響している。

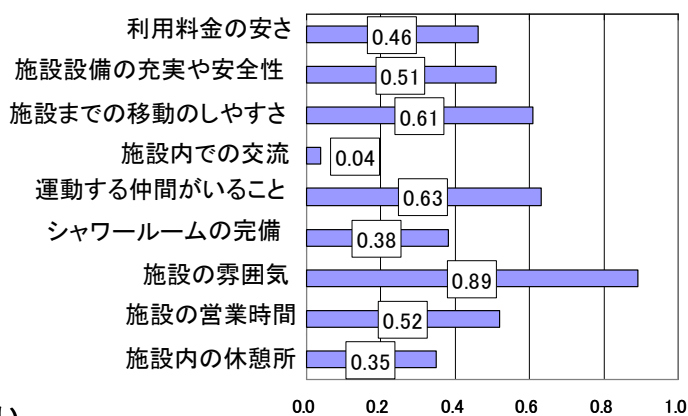


図 3 数量化Ⅱ類におけるレンジ

キーワード：QOL、意識調査分析、ロジット型価格感度測定法(KLP)

連絡先：〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町 1-1 TEL (018)-889-2767 FAX (018)-889-2975

(4) 運動施設への交通手段

運動施設までの主な交通手段を質問した結果、「自分で運転する車」と回答した被験者が最も多い。また、自動車を運転できなくなった場合の運動の継続意向についての質問をした(図 4)。約 6 割の被験者が「運動施設の利用をやめる」、「運動をやめる」と回答しており、運動施設への交通手段の確保が運動施設利用の継続に重要な要素であると考えられる。

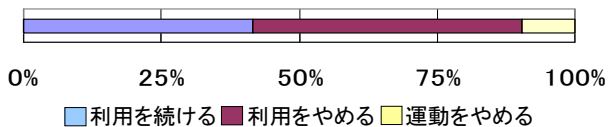


図 4 自動車が利用できなくなった場合の運動の継続

(5) 運動施設の利用による QOL の向上

運動施設の利用による QOL 向上の効果を明らかにするため、運動施設利用者に施設を利用するようになってからの意識や生活の変化を質問した(図 5)。いずれの項目においても「そう思う」、「ややそう思う」と回答する被験者が多い。このことから、運動施設の利用は QOL の向上に大きく寄与するものと考えられる。

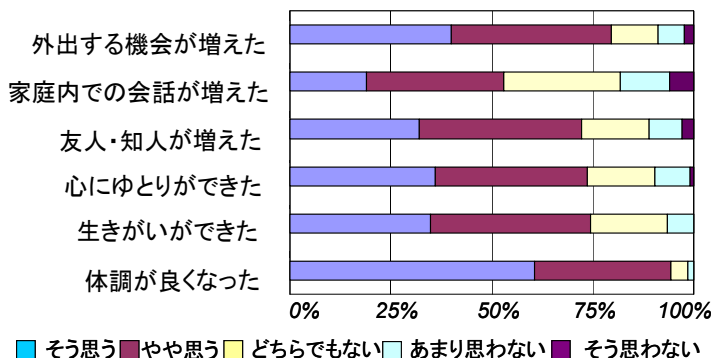


図 5 運動施設利用による意識や生活の変化

4. KLP による運動への費用負担意識分析

(1) KLP (ロジット型価格感度測定法) の概要¹⁾

KLP (ロジット型価格感度測定法) はある商品に対して「安いと感じる」、「高いと感じる」、「高すぎて利用しない」、「安すぎて利用しない」という 4 つの価格を消費者に質問する。回答された価格からロジットモデルで回帰した相対累積度数曲線を描き、その交点の価格を評価指標とする(図 6)。

消費者全体に受け入れられる下限、上限を下限価格(P_1) 上限価格(P_4) とし、高いとも安いとも感じない値ごろ感の基準となる価格を基準価格(P_3) 品質の割に安いと感じる分岐点を割安価格(P_2) とする。

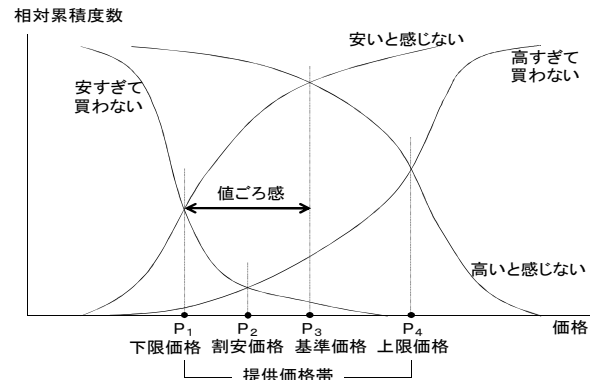


図 6 ロジット型価格感度測定法 (KLP) の評価指標

秋田市の 1 世帯が 1 ヶ月の運動にかける費用は約 4200 円²⁾であり、本研究では、1 世帯が 1 ヶ月平均で支払う運動に対する費用の価格感度を質問した。

(2) 運動施設利用に対する費用負担意識

得られた KLP の評価指標を表 1 に示す。それぞれの評価指標の基準価格をみると、運動施設の利用経験がある被験者は利用経験のない被験者と比べて費用負担意識が高い結果となった。このことから、利用経験のない被験者は高い費用をかけてまでも運動をする必要はないと感じていると考えられる。

表 1 施設利用の有無による KLP の評価指標(円)

	下限価格	割安価格	基準価格	上限価格
施設利用経験有	3220	4770	5890	8820
施設利用経験無	2300	2750	3660	8330

5. おわりに

分析の結果、運動に対する意識が高いこと、運動施設利用者は利用前と比べて QOL が向上していることが明らかとなった。また、日常的に運動をしている被験者の中でも、運動施設を利用している被験者の方が運動施設を利用していない被験者と比べて運動に対する満足度は高い。さらに、運動施設の利用者は運動施設に対する満足度も高く、運動施設利用者は高い費用負担意識を有していることも明らかとなった。以上のことから、運動施設は利用者に高い満足度を与え、QOL の向上に大きく寄与していると考えられる。しかしながら、運動施設の利用継続には施設への交通手段が必要であり、移動のしやすさが総合満足度にも影響している。すなわち、運動施設へのアクセスも重要な要素といえる。

参考文献

- 1) 岸邦宏・内田賢悦・佐藤馨一：航空運賃に対する利用者の価格感度に関する研究，土木計画学研究・論文集，No.16，pp.187-197，1999
- 2) 総務省統計局：家計調査家計収支編，2010